

第2回 医療クラスター形成会議 議事概要

➤ 日 時：平成27年7月3日（金）10:30～11:45

➤ 場 所：新阪急ホテル

➤ 出席者

<センター以外（委員・オブザーバー）>

- 大阪府副知事 小西氏（大阪府知事代理）
- 吹田市長 後藤氏
- 摂津市長 森山氏
- UR西日本支社長 伊藤氏
- 関西経済連合会健康医療・特区担当部長 岡村氏（関西経済連合会会長代理）
- 関西経済同友会企画調査部調査役 松尾氏（関西経済同友会代表幹事代理）
- 大阪商工会議所会頭 佐藤氏
- 吹田商工会議所会頭 寺西氏
- 日本製薬工業協会専務理事 川原氏（日本製薬工業協会会長代理）
- 日本医療機器産業連合会産業政策会議議長 三澤氏（日本医療機器産業連合会会長代理）
- 大阪大学副学長 金倉氏
- 京都大学医学部附属病院長 稲垣氏
- 医薬基盤・健康・栄養研究所理事長 米田氏
- 厚生労働省医政局医療経営支援課長 佐藤氏
- 経済産業省近畿経済産業局地域経済部長 高畠氏
- 国土交通省近畿地方整備局建政部長 植田氏
- 西日本旅客鉄道株式会社創造本部えき・まち創造グループ部長 金澤氏（オブザーバー）
- 近鉄不動産株式会社専務取締役分譲事業本部長 善本氏（オブザーバー）

<センター>

座長：橋本理事長、事務局：三石企画戦略局長、山本先進医療・治験推進部長、山本総務部長、外村財務経理部長 桑島政策医療部長他

➤ 議事概要

○橋本理事長挨拶

昨年の第1回医療クラスター形成会議で多くの貴重なご意見を頂いた。その後、さらに準備を進め、かなり進捗をしてきた。そこで本日改めて皆様方に今の進捗状況をご説明し、ご意見を頂きたいと思っているので、どうぞよろしくお願いしたい。

○議題1「医療クラスター形成に関する進捗・検討状況について」

- ・橋本理事長より資料1及び資料2を説明
- ・大阪府小西副知事より資料3を説明

（資料3の説明概要）

国循、吹田市、摂津市、大阪府の実務担当者レベルによる、「国立循環器病研究センターを核とし

た医療クラスター推進協議会」を本年5月に設置し、課題の検討をしてきたので、今日は、事務局を担う大阪府からその中間報告をさせて頂く。

まず、この医療クラスターの名称について、「北大阪健康医療都市」とし、愛称は、「健都 (KENTO)」と決めた。知識、運動、栄養、まちづくりそれぞれの英単語の頭文字を並べたものにもなっている。

また、健都イノベーションパークの企業集積についての基本的なコンセプトを整理した。健康と医療をキーワードに、北大阪バイオクラスターのさらなる発展を牽引するような新たなイノベーション拠点の形成、国家戦略特区や国循に蓄積されているビッグデータ、あるいは住民参加による実証研究など、あらゆるリソースの活かした研究開発の促進、AMED 創薬支援戦略部、PMDA 関西支部が設置されるうめきた・国土軸に近いという好立地条件の活用という、3つの視点を掲げている。

具体的なターゲットとしては、医療機器、医薬品、再生医療等製品と食事・運動を含む健康関連製品やサービス等の革新的な研究開発を行う企業の研究開発や試作を行う施設を中心に誘致をしてみたい。今後は、進出企業のニーズに合うような区画割を検討するとともに、ベンチャー企業等の進出を促すために、賃貸施設を設置したいと思っており、整備・運営について、国の補助制度の活用などの検討を始めている。

加えて、府としても、補助金や税制の特例といったインセンティブ制度を検討している。

それ以外にも、健都の特性や強みを活かしたインセンティブが必要だと思っている。

- ・三石局長より資料4及び資料5を説明

○議題2「意見交換」

- 阪大:金倉副学長 関西は、医療の研究という意味では、極めてレベルの高い施設が多く存在し、それぞれの施設が有機的に連携をしており、これからもさらにそうでなければならぬと考えている。大阪大学と深く関係する国循や市立吹田市民病院が移転し、こういう新たなメディカルのエリアができるということで、新しい切り口でこの領域に関する研究が進展するということを期待しており、是非とも大阪大学としても貢献をしていきたいと考えている。
- 吹田市:後藤市長 健都のまちづくりは吹田市にとって最重要のテーマである。まちの形、中身が固まってきたことには感無量の思い。今後、国循を核として、小粒でぴりりと辛い、循環器病の克服と健康寿命の延伸に特化した健康医療のまちとしてカラーを出していければと考えている。また、企業誘致を早ければ今年度末にスタートさせ、集まった企業がマグネット効果を持ち、さらに企業が入って来られるという成長するクラスターとしたいと考えている。立地のインセンティブも合わせ、障害があれば行政として取り除いていきたいと考えている。今後、企業等への宣伝をお願いするとともに、進出にご関心のある企業等があれば、吹田市にお知らせを頂きたい。
- 摂津市:森山市長 北大阪に残された最後の巨大な空間をいかに生かすかということからスタートし、関係者が今日まで知恵を絞って協議に協議を重ねて、具体的な方向付けができ上がってきたことは、非常に嬉しいことである。当市では、当初、イノベーションパークを都市型居住ゾーンとして位置付けてきたが、全体のまちづくりの観点から用途変更を行った。今後、同地で企業誘致が始まるが、地域に住まれる方と国循との連携などにも配慮しながら、イノベーションパークの成功に向けてしっかりと協力体制を取っていききたいと思っている。
- UR:伊藤支社長 この1年、順調に進み、4街区の商業施設ではJR西日本と、7街区の住宅

地では近鉄不動産のJVとご契約ができたことを大変喜んで、今後のまちの形成、熟成に、理想的なプレイヤーの方々に揃って頂いたように感じている。今後、関係者の皆様には、引き続き良好なコミュニケーションを取って頂き、個性と先進性を持つエリアとして発展をして、関西経済の活性化にも寄与されるよう期待するとともに、URとしても引き続き積極的に協力してまいりたい。

- 関経連：岡村部長 私共の方で、生き活き関西～“健康・医療”先進地域ビジョン～を策定し、今年度から実行に入っているところ。ビジョンは、将来的に関西における健康・医療産業の発展及び健康社会の実現に繋げるというもので、委員会として、本年度、健康・医療専門委員会を立ち上げ、産官学連携が必要なものについては、仮称だが関西健康・医療産業創生会議を立ち上げた次第。このプロジェクトについて、私共としてもお力になればと思っている。
- 関経同：松尾調査役 先程、橋本理事長からご説明頂いた循環器病の予防と制圧の拠点を目指すという事については、大変重要だと思う。また、国際級の医療クラスターの実現については、色々苦労もあると思うが、よろしくお願ひしたいと思う。駅前複合商業施設は健康に関するものだという事で、後ほど、JR西日本から目玉は何かというのを教えて頂ければありがたい。ロケーション的には、駅前複合商業施設はまち全体の玄関にあたり、大変大事だと思うのでよろしくお願ひしたい。
- 橋本理事長 詳しいことはまた後ほどご説明頂けたらと思うが、ここは健康を意識したゾーンであり、健都と名前を付けたところであるので、スポーツジムやスーパーマーケットはどこでも健康を意識しているとは思いますが、より明確に打ち出すことができれば大きな核になると考えているので、関係の方々とは協議をしてまいりたい。
- 大阪商工：佐藤会頭 ご説明を伺い、基本理念が姿として見えてきたなという思いがした。今後、オープンイノベーションセンターあるいはイノベーションパークの内容をより具体的なものにしていくことが1番問われていると思うので、大商としてはこれまで国循と長年に渡って具体的な事業を進めてきたが、より多くの意欲や技術のある中小企業の参画を促すような支援策等を色々検討してご相談したいと思っている。それと、オール関西での取組という事で、本日の会議に京都からは京都大学の先生がお見えだが、兵庫、神戸からは残念ながらどなたもお越しではない。今後、この拠点が本当に世界をリードするものにもっていくため、行政サイド（大阪府）からも会議への参加を働きかけて頂き、京阪神が連携を深められるようにすべきだ。
- 吹田商工：寺西会頭 地元の会議所としては、JR岸辺駅前に医療クラスターが形成される事は大いに期待をしているところ。循環器病の予防というところに、ビジネスチャンスがあるのではないかと考えており、ヘルスケア産業の創出とこれに対する支援を商工会議所としてできないだろうかと考えている。また、吹田市、摂津市の技術力のあるものづくり事業者と国循のマッチングをしていきたいとも考えており、ご協力をお願いしたい。
- 製薬協：川原理事 昨年の会議の後に、協会の会合等でこの動きについて周知をさせて頂いた。その後、国の方でも健康・医療戦略の策定等があり、益々、新薬研究創出型の企業に新薬の創出が求められるような状況になってきている。本日お話を伺っていると、本当に着実に進んできているなという感じであるが、今後とも会員企業が積極的にこのクラスター形成に関わっていくように、私としても微力を尽くしてまいりたい。
- 医機連：三澤議長 研究開発環境が非常に良くなって来たというのが、今の日本の現状ではない

かと思う。一方、1年間に日本で申請された新規の医療機器の7割から8割が海外製品という状態である。そういう意味で、イノベーションパークやオープンイノベーションセンターの取組は非常に期待している。1点だけ申し上げると、医療機器分野へ参入したいという企業と組むため、医療機器開発人材の育成の仕組みも入れると良いのではないかと思う。

- 京大：稲垣病院長 今、日本の死因は大きく分けるとがんと血管病である。血管病というのは、やはり予防というのが基本。このクラスターで、どこに焦点を当てていくかということは非常に重要だと思うが、まず1つは、2次予防、1次予防、さらにはより早い段階での先制医療といった取組も必要なのだろうと思う。もう1つは、治療やリハビリに焦点を当てた医療機器というのが非常に重要ではないかと思う。
- 医薬基盤・健康栄養・研究所：米田理事長 新しく統合された私共の研究所では、運動と健康、食と健康の関係など、色んな調査・研究をしている方々がいる。また公衆衛生学の先生が健康に関するコホート研究などをやっておられる。さらに WHO と組んでアジア地域の健康調査をするといったようなこともスタートしている。幅広くお手伝いできればと強く思っている。
- 厚労省医政局：佐藤課長 私共の医療経営支援課というのは国循を初めとする6つのナショナルセンターなど色んな施設の所管をしている課であるが、中でも国循の移転建替というのは重要な課題の1つであり、私共としては、精一杯努力をしたいと考えている。皆様には、引き続きご支援ご協力をお願いできればと考えており、よろしくお願ひしたい。
- 経産省近畿経済産業局：高島部長 関西は、健康・医療分野の世界最先端の研究機関や関連産業が集積している。政府においても、成長戦略で健康寿命の延伸といった大きな柱を立て、健康・医療を巡る制度面での環境整備を進めている。こういった中で、この構想は、非常に有望なプロジェクトであり、イノベーションパークやオープンイノベーションセンターにおいていかに実のある活動ができるかがポイントだと思っており、近畿経済産業局としても、各種競争的資金や技術開発資金を活用しながら、全力でこの構想を応援してまいりたいと考えている。
- 国交省近畿地方整備局：植田部長 国土交通省としては、インフラの整備の部分において交付金で支援をしていくため、予算の確保に努めてまいる。今後のまちづくりという観点からは、駅前の複合商業施設のゾーンや高齢者向けの複合居住施設のゾーンなどで民間の商業施設や福祉施設といったものの誘致というのが出てくると思うが、人口減少や高齢化に対応した都市のコンパクト化の観点から、民間の設備に対する補助制度も国交省にはあるので、ご活用頂ければと思う。
- 西日本旅客鉄道：金澤部長 駅前複合商業施設は、健康・医療と市民生活の両面を支援する施設としたいと思っている。予防医療の窓口となる健診センターや8つの診療所、居住介護の支援機能を設け、フィットネスクラブでは国循と連携し、色んな利用者のデータの収集や予防プログラムメニューなどを作成していきたいと考えている。また会議室や患者様の関係者の利用も想定されるビジネスホテルも整備し、スーパーマーケットや飲食店では、かるしおレシピを生かした健康的で美味しいメニューを選択できるようなものも考えていきたいと思っている。また調剤薬局については、24時間対応のものも1つ用意したいと思っている。その他子育て支援やリハビリデイサービスの機能といったものも含め、トータルに豊かな生活と健康・医療のまちづくりを目指して頑張りたい。
- 近鉄不動産：善本専務 当地区については、周辺施設と連携して、予防医療や健康増進について連携が期待される街区と位置付けられており、連携して健康住宅地を目指して参りたいと思っ

いる。まず、私共でできる事でいくと、意識せずとも日常生活に運動を取り込むことができ、気付かぬうちに健康な生活を送ることができる動線計画。また、各施設と連携した健康増進、あるいは健康情報の共有化、主体的な健康管理ができる住宅地づくりを目指してまいりたい。医療クラスターとしては、我々住宅部門と各施設との連携は極めて大事だと思うので、改めてご協力をお願いしたい。

- ・橋本理事長：本日、ご意見を頂いたことによって、我々の進むべき道が、またより明確になったと思う。世界をリードするという言葉がかけ声に終わらないよう、小粒の利点を生かすことによって、健都という名前が示すような健康を志向するモデル地区を作って、世界に発信することができると思っているので、今後ともよろしくをお願いしたい。

～ 以上 ～